

地域医療実習研修レポート

名古屋第一赤十字病院 2年次研修医

まず初めに、この4週間お世話になりました総合診療内科の先生方、外来の看護師さん方、総務課の方々、豊橋の同期、その他この研修でお世話になったすべての関係施設の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。おかげさまで4週間、慣れない病院での研修を不安なく終えることができました。

生まれてからこのかた名古屋を出て生活をしたことがなかった私は、この研修に来る前は「僻地医療なんて苦労ばかりで大変でしかないだろう。検査も十分にできないし、どうやって診察したらいいのだろう」と、正直ネガティブな気持ちしかありませんでした。それが、夏の盛りに新城にやってきて4週間、初診外来や救急外来の診察に携わらせていただいたことで大きく考え方が変わったように思います。確かに緊急で行える検査や処置には限りがありました。だからこそ、問診や身体診察など医療の基礎に立ち返ることがどれほど重要かを学べたのだと思います。鑑別を絞り切らずやみくもに検査を行うのではなく、問診からできるだけ可能性を狭めていく。医師の最大の武器は患者さんとのトークなのだと再確認できました。また、自分の診察に対するフィードバックをいただけて、より成長できたのではないかと思います。新城は思ったより田舎ではなかったです、思ったより患者さんが多かったです、思ったより若い人がいました。たくさん予想は裏切られましたが、思っていた通り高齢者の方々が元気でした。名古屋の高齢者よりもかなり元気に見えました。そしてその方々の健康を守るために自分の頭と手をフル回転させていらっしゃる総合診療科の先生方は思っていた何倍もかっこいい存在でした。そんな先生方に教えていただいた4週間の経験を今後の自分の診察に活かしていきたいです。

この研修でできたもう一つの大きな経験は、訪問看護や訪問リハ、診療所や助産所などの見学ができたことです。病院と住民の間を様々な形でサポートしてらっしゃる、その現場を中から見ることができました。このような地域ならではの経験だと思います。カバーしなければならない地域の範囲が広く移動するだけでも大変です。それでも、こうしたサポートのおかげで病院と住民の間の距離は間違いなく縮まっていました。だからこそ、安心して高齢者の方だけでも暮らしていけるのだと思います。距離の近さによる安心感と温かさ、これが高齢者の方々の元気の理由の一つなんだなと思いました。

新城での4週間は長くもあり、短くもありました。新城にやってきたときは名古屋と同じくらい暑い日もありました。でも名古屋に戻る前の最後の夜は秋の気配を感じるような涼しさでした。あっという間に時間は過ぎましたが、日赤では経験できないような濃密な日々だったと思います。私は神経内科を専攻するつもりですが、指導医の先生のお言葉通り、神経内科に進んでも **general** に診られるようにこの4週間の研修を折に触れて思い出したいと思います。将来、総合診療科の先生方にあいつになら任せられる、と思ってもらえるような医師になりたいと思います。

改めて、4週間ありがとうございました。